

かほく市
地球温暖化防止実行計画
(区域施策編)

(2023年度～2030年度)

概要版

計画策定の背景

地球温暖化の進行に伴い、世界各地で異常気象の増加や環境の変化が生じています。地球温暖化は、人類の生存基盤に関わる問題であり、最も重要な環境問題のひとつとされています。

地球温暖化を防止するため、国内外で取り組みが始まっております。日本においては、令和2年に、国として2050年カーボンニュートラル実現を目指すことを宣言しました。さらに、令和3年には、2050年カーボンニュートラル実現に至る中間目標として、2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比46%に引き上げ、さらに50%削減の高みを目指すことを表明しています。

こうした中、令和4年2月25日には、かほく市として2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

計画の目的

「かほく市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）」は、本市の現状や地域特性を踏まえ、本市から排出される二酸化炭素の削減に向け、市民・事業者・行政が同じ目標の達成に向けて互いに連携して取り組むことで、地球温暖化防止を図ることを目的とします。

計画の対象とする温室効果ガス

二酸化炭素

計画の期間

令和5（2023）年度～令和12（2030）年度

温室効果ガス排出量の状況

◆かほく市の二酸化炭素排出量の状況

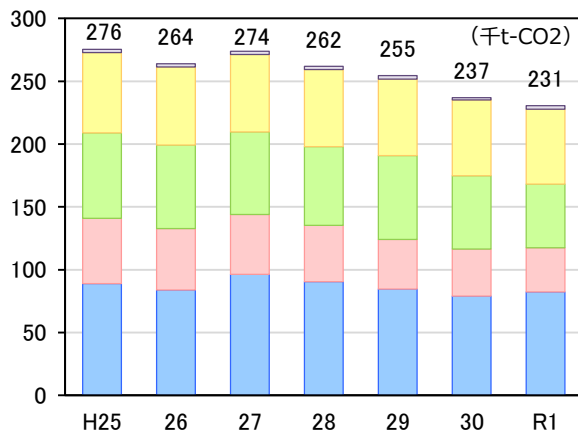
単位：千t-CO₂

部 門	平成25年度 (基準年度)	令和元年度 (現況値)
産業部門	89	82
業務その他部門	52	35
家庭部門	68	51
運輸部門	64	60
廃棄物分野（一般廃棄物）	3	3
合計	276	231

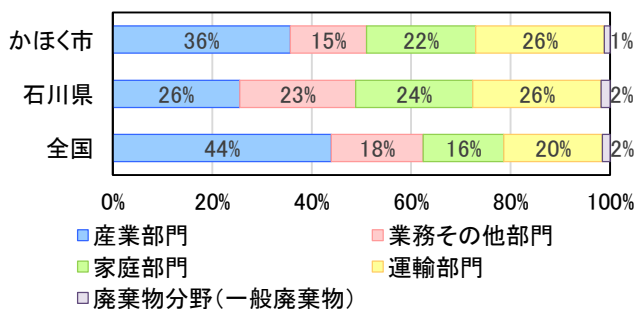
かほく市における二酸化炭素排出量は、平成25年度から令和元年度にかけて減少傾向となっています。

かほく市の二酸化炭素排出量部門構成比は、全国と比べて運輸部門、家庭部門が大きいことからこれらの部門で特に積極的な取り組みを進めることが効果的であると考えられます。

◆かほく市の二酸化炭素排出量の推移



◆二酸化炭素排出量部門構成比（令和元年度）



計画の基本理念

100年後も美しい海とみどりに抱かれたまちを目指して
～共創で実現するゼロカーボンシティかほく～

計画の基本方針

1. 再生可能エネルギーの利用推進
2. 環境負荷の少ないライフスタイル・ビジネススタイルへの転換
3. ごみ減量化と省資源化の推進
4. 教育と普及啓発
5. 共創体制の構築

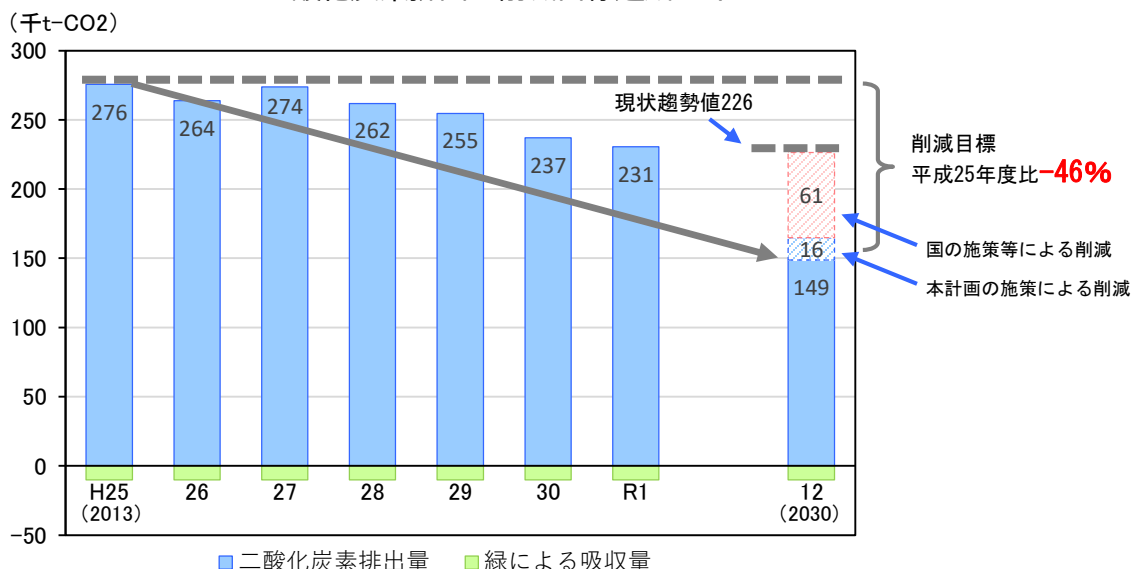
二酸化炭素排出量削減のためには、再生可能エネルギーの導入が鍵となります。再生可能エネルギーのうち、代表的なものである太陽光や風力、水力は、優先順位を設け、導入の施策を講じます。また、再生可能エネルギーの導入だけでは目標を達成できないため、使用するエネルギーを減らすことで二酸化炭素削減を図る必要があります。環境負荷が小さいライフスタイル・ビジネススタイルへ転換し、ごみ減量化、省資源化を図ります。

これらの取り組みには、かほく市に関わる全ての人たちが、当事者意識を持つ必要があります。市全体で脱炭素に関する理解を深めるための場を設け普及啓発を行います。さらに、市民・事業者・市で脱炭素に関する共通認識を持ち、互いに連携して取り組むための体制を構築します。

計画の目標

令和12（2030）年度の二酸化炭素排出量を
平成25（2013）年度比で、46%削減

二酸化炭素排出量削減目標達成のイメージ



100年後も美しい海とみどりに抱かれたまちを目指して
～共創で実現するゼロカーボンシティかほく～

基本方針1 再生可能エネルギーの利用推進

- ◆再生可能エネルギーの導入拡大
- ◆新たな手法による再生可能エネルギーの導入推進

**基本方針2 環境負荷の小さいライフスタイル・
ビジネススタイルへの転換**

- ◆省エネルギー行動の実践
- ◆省エネルギー機器・設備の導入推進
- ◆省エネルギー型ビジネススタイルへの転換

基本方針3 ごみ減量化と省資源化の推進

- ◆4Rの推進
- ◆食品ロス削減

基本方針4 教育と普及啓発

- ◆脱炭素に関する情報提供
- ◆イベント・研修等の機会充実
- ◆脱炭素人材育成

基本方針5 共創体制の構築

- ◆市民・事業者主導事業の創出
- ◆市民・事業者・市の共創体制構築